

いつも現役!! カメラを携え「ひらめき洒落百景」

タグ #2022/08 #いつも現役 #カメラ #セカンドライフ #中国地方 #人物 #島根 #鳥取

フロムOBいつも現役

2022/08/03

フロムOB いつも現役!!



よしまさ
内海 芳甫さん（松江市在住 77歳）

カメラ片手のぶらり散歩で写真と言葉のコラボレーション、名付けて「ひらめき洒落（しゃれ）百景」を楽しんでいるという松江市の内海芳甫さん。旧友会の誌面にも積極的に投稿しているそうです。マイペースな「ひらめき洒落百景」の日々を内海さんご自身にお書きいただきました。

「忘れられた石がある。転げ落ちそうな石がある。踏ん張っているように見えない石がある。危険を楽しんでいるように見える石がある。時代に風化しない老人力を石にみた」

最近、有名になった米子城跡（鳥取県米子市）の光景。建物は無い。本丸からの海（中海）と山（大山）の遠望が売りである。この本丸の四重櫓（やぐら）台の石垣の角に今にも落ちそうな石がぼつんとある。幕末の石垣修復の時、置き忘れたいらしい。この光景に遭った時、ひらめいた。石を「意志」と置き換えれば哲学的に変身する。洒落も楽しめると思った。



米子城跡の忘れ石



米子城跡からの展望

私がやっていることはヒラメキ洒落百景。偶然に出合った光景をパチリと撮って言葉を添える。

退職後の行動原理は、赤瀬川原平の「路上観察学」「超芸術トマソン」そして「老人力」の3つに影響された。「路上観察学」は、路上を子どもの視点で観察して面白いがる学問。おもな研究者は、赤瀬川原平（小説・画家）、藤森照信（建築家）、南伸坊（イラストレーター）。「超芸術トマソン」は無用の長物こそ芸術を超えたものという赤瀬川原平の考え。1980年代のジャイアンツで、大型扇風機のようにバットを振り回し三振の山を築いても反省は一切ない誇り高い外国人選手「トマソン」にちなむ。



自分なりの解釈をして怠惰の赴くままにぶらりぶらり散策する。カメラは手放せない。目的は、無用の長物をパチリと収める。持ち帰って頭の中をグルグル浮遊する意味不明の言葉を見つける。無用の長物に最適な言葉は何かと。

言葉との出合いは楽しい。その場所は意外な所にある。新聞下段の週刊誌のコマーシャル文が面白い。ちょっと過激な表現は使える。静かな場面に効果的である。かしまった本から探す必要はない。



内海さんの創造空間である書斎。何でも置きっぱなしのほうが自由で気持ちがいい。

頭の中は悠然たるものにしておきたいという

写真と言葉のコラボ、これからもカメラ片手に、あてのないブラリ行動を続け、発見した超芸術にうなりながら言葉を添わせようと思っている。老人の挑戦継続にご期待ください。

プロフィール

内海芳甫さん（中国旧友会）

1963年入局。尾道局でスタートをきる。以後、中国地方各放送局、晩年には東京・放送センター番組運行に従事。松江局を最終地点とし、番組送出卓、ニュース送出卓のデジタル化に努めた。思いつくままの一人活動の様子を旧友会誌へ数多く投稿し、誌面を飾っている。

→その他の「フロムOB!!いつも現役」を読む